自分もチームに愛される人間になりたい

デンマークが「世界一幸せな国」

久 保 克 之

★はじめに

デンマークと日本の大きな違いといえば、社会保障と言われています。税金が高額であるから当然といえば当然ですが、病気にかかっても医療費は無料で、病気などで働けなくなっても収入は保証されるということです。

また、ホームドクターが決まっていることで、どんな症状でも相談できます。自分の生い立ちや、家庭を知っている医師にかかりつけとなってもらえると安心ですし、精神的な安心感が得られると、心の安定を保つことができ、そういったことが幸福ということに繋がるのだろうと感じました。

その上、教育にお金がかからないということなども大きいとされています。デンマークでは小学校から大学院までの学費が無料です。

会社勤めをしても、自己啓発のために学校に通うときも学費がかかりません。進学したい、学びたい機会を無料で与えられていること、これは幸せな機会です。

★仕事でもハッピー

興味深いことにデンマーク人はそれだけでなく「職場でもハッピー」というのです。国別の仕事満足度調査をみると、ほとんどの調査でデンマークの従業員は世界一幸せだという結果が出ています。

私はこの『仕事でもハッピー』に興味を惹かれてデンマーク視察研修の一つのテーマとして参加してきました。

デンマークでは労使協約により週の労働時間が 37 時間以下と、とても短いと聞きました。

日本と比べ日照時間が長いので 15 時に帰宅してから十分家族との時間が持てるのです。それはこの滞在中にも実際に何度も目で見て感じました。

★夕方の商店街がとても賑やかだったこと。

夕方、ニューハウンのふ頭沿いに並ぶいくつものカフェテラスで、ボートを眺めながらビールを飲む人々の多さに驚いたこと。

ロスキレ港でアイスを手に持ち、散歩する夫婦。

そして、初めて森の保育園に登園した小さな子どもが、泣きながら駆け寄ったのがママではなくパパであったことなどは、それを連想させられました。(パパの子育ての参加)
家庭でハッピーであれば、仕事の効率も上がり生産性も向上するというデータもあるということでした。

★職員の身体を守る工夫

職場には、職員の身体を守る工夫がたくさんありました。使う人の座高に合わせてボタン一つで上下するデスク。これは座っていても立っていても自分の姿勢に合わせた高さでデスクワークできるということでした。これを応用したテーブルやカウンターなどもありました。

また、補助器具をメンテナンスする際、持ち上げたり屈んだりする必要がないように

補助器具を吊るリフトも見せていただきました。

そして、保育園ではおむつ交換の際に職員が屈まなくてもいいように、ボタンで上下するおむつ台。これらは全て職員の腰を守るための工夫です。

ここデンマークでの介護の世界では介護者が被介護者を自分の身体を使って持ち上げることは法律で禁止されています。
「法律で禁止されている行為なので、もしあなたが持ち上げて身体を痛めても労災は降りませんよ！」と言うことになります。職員を大切にし、さらに税金を使わないためとのことでした。(医療費も失業の補償も、すべて税金で賄われるため)

★自分が捜しにきた道筋

初日の朝の散策の時に、中能さんの話の中で「デンマークの子どもは国に愛されている。だからデンマーク人には愛国心がある。」と教わりました。

この時、私は朝の冷たい空気を感じながら心の中で熱く「これだ・・・」と悟りました。初日にして自分が捜しにきた道筋を見つけたような気がしました。

この教えは、「愛されれば、その子は人を愛する大人になる。」など言葉は違うが、この後も視察研修中に度々聞くことになるのです。

★これは仕事でも同じでは？

① 法人に愛(期待)されているから帰属意識が生まれる。
② 事業所に愛(信頼)されているから良い仕事ができる。
③ チームに愛されているから仕事に夢中になれる。

これは、視察させていただいたどの施設でもそのように映りました。初日に方向性を見つけた私はこの視点で各施設を見学しました。部下を愛する上司の発言や眼差し。それに対して良い仕事で返すスタッフ。

家庭でハッピーなだけではなく、職場でもハッピーということがよくわかりました。

私は、定年まで名張育成会で働くつもりです。そうするとあと 20 年以上は勤めることになります。

新しく入ってくる職員には、そのような環境で迎えたいですし、そうなるように改善へ向けての行動や発言はしていきたいと思います。

そして同時に自分もチームに愛される人間になりたいと思います。

デンマークで感じたことをいつも心にとどめ、楽しく良い仕事をしていきたいです。